

SB572建物跡は、本次調査で新たに検出した東西棟の掘立柱建物跡であるが、桁行5間・梁間2間の構造であること、周溝がめぐること、柱抜き取りがほとんどないことが、南西に隣接する2棟の掘立柱建物跡（SB571・574）と共通している。よって、政庁北西部に、これら規模・構造の類似した3棟の建物をL字状となるよう計画的に配置したものと考えられる。政庁建物群の中で東西棟であるのは、南北の門跡を除いて、SB500正殿跡とSB572建物跡のみである。

政庁・官衙域調査の成果と課題

政庁建物群 第77・82次調査によって、政庁域では約11,000㎡が調査されたことになり、計17棟の掘立柱建物跡を確認している（第28図、政庁建物一覧表）。東西南北の門跡・正殿跡・西脇殿跡といった城柵に共通の主要殿舎を除いても11棟の建物が政庁内に存在しており、約150m四方という政庁域の広さとともに、志波城跡の大きな特徴の一つとなっている。これら政庁域の建物群相互に重複はないが、その特徴から下記の3グループに大別できる。

Aグループ—SB510南門跡、SB530東門跡、SB550北門跡、SB570西門跡、SB500正殿跡、

SB580西脇殿跡、SA511目隠堀跡、SB534建物跡、SB576建物跡

棟 方 向：傾きが6.5°と政庁中軸線の傾きとほぼ同一

柱間寸法：門以外は桁・梁とも10尺等間であるが、SB534のみ桁8.5尺・梁11尺等間

柱 抜 取：すべて抜き取られている

Bグループ—SB571建物跡、SB572建物跡、SB574建物跡

棟 方 向：傾きが6.5°と政庁中軸線の傾きとほぼ同一

柱間寸法：桁は10尺等間、梁はSB571が10尺等間、SB572・574が10.5尺等間

柱 抜 取：一部のみ抜き取られている

Cグループ—SB531建物跡、SB532建物跡、SB533建物跡、SB535建物跡、SB575建物跡、

SB579建物跡

棟 方 向：傾きが2°30'～8°55'と政庁中軸線の傾きとは異なる

柱間寸法：7～10.5尺で、間尺の異なるものが多い

柱 抜 取：一部のみ抜き取られている

Aグループは、棟方向を政庁中軸線に合わせ、広場を囲むよう配置された志波城政庁の主要殿舎であり、解体され徳丹城へ運ばれた可能性がある建物群である。このうち、東門跡と西門跡に建て替え、正殿跡と西脇殿跡に縁の造り替えが確認されており、約10年間と考えられる志波城存続期間内にも政庁の変遷が認められる。Bグループは、棟方向を政庁中軸線に合わせ、政庁北西部にL字状となるよう計画的に配置されており、柱間寸法も近似していることから、Aグループと同時に建築されたと考えられるが、解体されていない点がAグループと異なる。Cグループは、棟方向が政庁中軸線に揃わず、A・Bグループの柱間寸法とは異なる建物群であり、SB531建物が四面廂で格式の高い建物である他は、柱間寸法が不同で平面形も歪んだ建物が多い。

官衙建物群 一方、政庁周辺に広がる官衙域ではこれまで計16棟の掘立柱建物跡を検出しており（第28図、別表）、建物の重複とその特徴から、下記2時期の変遷を想定してゐる。

I 期—SB220建物跡、SB223建物跡、SB226建物跡、SB227建物跡、SB228建物跡、
SB230建物跡、SB231建物跡、SB232建物跡

棟 方 向：傾きが $4^{\circ}30'$ を中心にSB227より東側では $0^{\circ}30' \sim 3^{\circ}15'$ 、西側では $7^{\circ}30' \sim 9^{\circ}30'$ におさまる。

柱間寸法：桁で9尺等間のものと6～7尺等間のものがある

柱 抜 取：Ⅱ期より抜き取られているものが少ない

Ⅱ 期—SB221建物跡、SB222建物跡、SB229建物跡、SB234建物跡、SB240建物跡、
SB241建物跡、SB245建物跡、SB246建物跡

棟 方 向：傾きが $6^{\circ}30' \sim 7^{\circ}30'$ におさまり、志波城跡中軸線の傾きに近似

柱間寸法：桁で7～8尺等間のものが多い

柱 抜 取：ほとんどが抜き取られている

I期建物群は、棟方向が志波城跡中軸線の傾きに揃わず、南東官衙域に長方形の広場を囲んで多くの建物が存在している。SB227・231は片面廂を持つ規模の大きな建物であり、I期の中心的建物と考えられる。Ⅱ期建物群は、志波城跡中軸線に棟方向をほぼ合わせており、東方官衙域にも建物が広がっている。ほとんどの柱が抜き取られていることから、解体され徳丹城へ運ばれた可能性がある。

政庁域の各建物グループについては、相互にその性格が異なると考えられ、またAグループのSB576建物跡とCグループのSB575建物が近接しすぎて同時存在が考えられないことからすると、A・BグループとCグループに建築の時間差を想定することもできる。官衙域のI期建物群は、棟方向や柱抜取の特徴が政庁Cグループ建物群と類似しているようであり、政庁A・Bグループ建物群にやや先行して政庁Cグループ建物群と官衙I期建物群が建築された可能性も考えられるが、確証はない。政庁・官衙建物群の性格や時期変遷については明確でない部分が多いが、『日本紀略』延暦22年2月条に見られる「造志波城所」の存在、志波城建置による地域支配の多様化の進展、『日本後紀』弘仁2年閏12月条に見られる徳丹城移転後の残留兵士の存在、などの観点から、さらに検討していく必要がある。

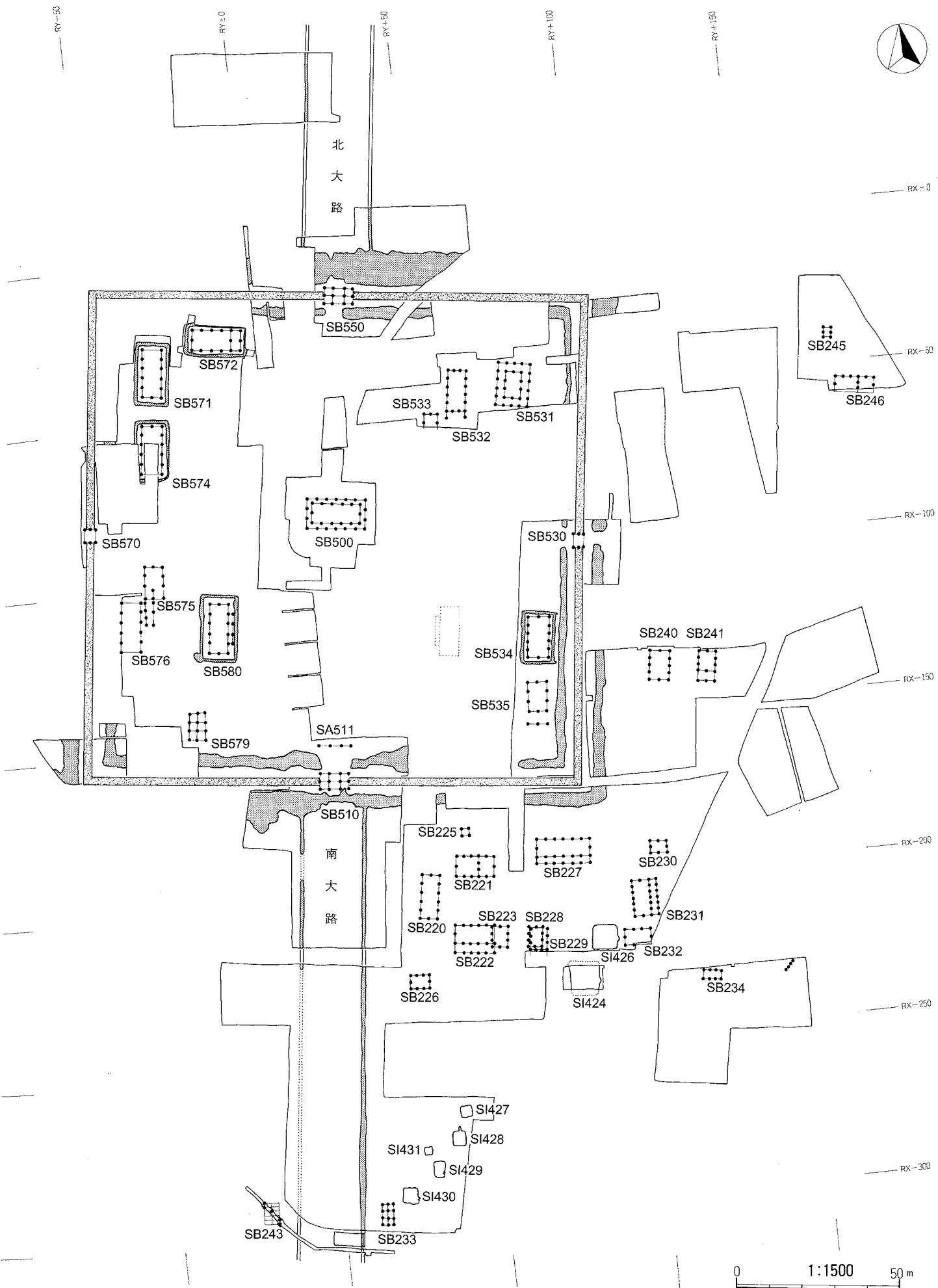
志波城跡の第Ⅱ期保存整備事業に伴い、平成13年度までは政庁域を中心とした発掘調査を継続する計画であり、それにより政庁内の建物配置や区画施設のあり方がより明らかになると考えられる。その他、政庁西方・北方の建物配置を確認し、政庁周辺の官衙域の実態を解明する調査を行うことも、今後の課題と考えている。

	遺構名	棟方向	構造	柱間寸法 (1尺=0.3m)	改築	柱抜き取り	グループ
政庁	SB500正殿跡	東西棟 E 6.5° S	5×2間 (廻縁)	桁梁とも10尺等間、縁10尺	1期?	すべて	A
	SB540東脇殿跡	南北棟 N 6.5° E	5×2間 (縁、周溝)	桁梁とも10尺等間、縁4.5尺	1期	すべて	A
	SB580西脇殿跡	南北棟 N 6.5° E	5×2間 (縁、周溝)	桁梁とも10尺等間、縁4.5尺	1期?	すべて	A
	SB510南門跡	東西棟 E 6.5° S	八脚門	桁9・11.5尺、梁8尺	1期	すべて	A
	SB530東門跡	南北棟 N 6.5° E	棟門→四脚門	桁13.5尺、梁5.5尺	2期	すべて	A
	SB550北門跡	東西棟 E 6.5° S	八脚門	桁9・11.5尺、梁8尺	1期?	すべて	A
	SB570西門跡	南北棟 N 6.5° E	棟門→四脚門	桁13.5尺、梁5.5尺	2期	すべて	A
	SA511目隠塀	東西 E 6.5° S	3間	不同3.26・3.05・3.36m	1期	なし	A
	SB531建物跡	南北棟 N 8° 55' E	3×2間 (四面廂)	桁9尺、梁8尺、廂8尺	1期	なし	C
	SB532建物跡	南北棟 N 7° 0' E	6×3間 (斜柱)	桁8尺、梁不同	1期	一部	C
	SB533建物跡	南北棟 N 7° 0' E	2×2間以上	桁8.5～10尺、梁7尺弱	1期	なし	C
	SB534建物跡	南北棟 N 6.5° E	5×2間 (周溝)	桁8.5尺、梁11尺	1期	すべて	A
	SB535建物跡	南北棟 N 2° 30' E	3×2間	不同	1期	なし	C
	SA536柱列跡	東西 E 6.5° S	2間	10尺等間	1期	すべて	A?
	SB571建物跡	南北棟 N 6.5° E	5×2間 (周溝)	桁梁とも10尺等間	1期	なし	B
	SB572建物跡	東西棟 E 6.5° S	5×2間 (間仕切・周溝)	桁10尺、梁10.5尺	1期	一部	B
	SB574建物跡	南北棟 N 6.5° E	5×2間 (周溝)	桁10尺、梁10.5尺	1期	一部	B
	SB575建物跡	南北棟 N 5° 0' E	2×3間	桁梁不同	1期	なし	C
	SB576建物跡	南北棟 N 6.5° E	5×2間	桁梁とも10尺等間	1期	すべて	A
	SA577柱列跡	南北棟 N 6.5° E	3間	不同	1期	なし	B?
	SA578柱列跡	南北棟 N 2° 0' E	4間	不同	1期	なし	C?
	SA579建物跡	南北棟 N 6° 0' E	3×2間 (総柱、周溝)	桁梁不同	1期	なし	C

政庁建物一覧表

	遺構名	棟方向	構造	柱間寸法 (1尺=0.3m)	柱抜き取り	時期
南 東 官 衙	SB220建物跡	南北棟 N 9.5° E	5×2間	桁9尺、梁9尺	すべて	I期
	SB221建物跡	東西棟 E 6.5° S	5×2間 (間仕切)	桁7.5・8尺、梁10.5尺	ほとんど	II期
	SB222建物跡	東西棟 E 6.5° S	5×2間 (南廂)	桁8尺、梁9尺、廂9～10尺	すべて	II期
	SB223建物跡	南北棟 N 7° 45' E	3×2間	桁7尺、梁8尺	なし	I期
	SB226建物跡	東西棟 E 3.5° S	3×2間	桁6.5尺、梁7尺	なし	I期
	SB227建物跡	東西棟 E 4.5° S	6×2間 (南廂)	桁9尺、梁8.5尺、廂8尺	一部	I期
	SB228建物跡	南北棟 N 7.5° E	3×2間	桁6.5尺、梁6.5尺	すべて	I期
	SB229建物跡	南北棟 N 7.5° E	3×2間 (間仕切)	桁8・5.5～6尺、梁8.5尺	すべて	II期
	SB230建物跡	東西棟 E 3.25° S N 0.5° E	2×2間	桁8・5・9尺、梁6尺強	なし	I期
	SB231建物跡	南北棟 N 0.5° W	6×2間 (東廂)	桁6尺、梁8.5尺、廂8尺	一部	I期
	SB232建物跡	東西棟 E 2.75° S	3×2間	桁9尺、梁8尺	なし	I期
	SB234建物跡	東西棟 E 6.5° S N 10.75° E	3×1間	桁5.5・6.5尺、梁6尺	なし	II期
東 方 官 衙	SB240建物跡	南北棟 N 7° 25' E	4×2間	桁7.5尺、梁10・10.5尺	なし	II期
	SB241建物跡	南北棟 N 7° 31' E	3×2間 (南廂)	桁7・6.5尺、梁8.5尺、廂10尺	なし	II期
	SB245建物跡	南北棟 N 7° 00' E	2×1間	桁5尺、梁8尺	一部	II期
	SB246建物跡	東西棟 E 7.5° S	5×2間 (間仕切)	桁8尺、梁8尺	すべて	II期

官衙建物一覧表



第28図 政庁・官衙域全体図